

T U P 4 5 8 20050206 メディアもブッシュ政権も調子に乗って、 イラク選挙を民主主義の勝利と吹聴するが、、

以下の文書の原文：<http://www.iacenter.org/iraqelection.htm>

原文 p d f：<http://www.iacenter.org/images/electioniniraq.pdf>

邦文：<http://groups.yahoo.co.jp/group/TUP-Bulletin/message/492>

抵抗勢力の攻勢が激化する中、1月30日にイラク選挙が強行されました。主流メディアにはちょうちん持ちの報道が多く流れ、2月2日の一般教書演説でもブッシュ大統領は明るい未来を描いて見せました。スンニ派はボイコットし、実施された選挙そのものにも問題点が多すぎるこの選挙に対して、国際行動センター(International Action

Center、I A C)が選挙翌日、声明を出したので紹介します。I A Cはアメリカのクラーク・ラムゼー元司法長官が立ち上げ主宰し、平和・連帯・真実を目的として国内外で共同行動を提起している、ニューヨークに本拠を置く団体です。

(T U P/寺尾光身)

国際行動センター (I A C) 声明 イラク選挙について

「大ばか者が、何の意味も無い話を、こわ高く大仰に語っていることよ」

- ウィリアム・シェイクスピア 訳者註：『マクベス』5幕5場

メディアもブッシュ政権も調子に乗って、この週末に行われた選挙を民主主義の勝利と吹聴している。だが、この選挙はイラク現地では何の変化ももたらしていない。選挙翌日の1月31日月曜日、イラクの人びとが眠りから覚めたとき、自分たちの国は15万の米軍の占領下にあり、C I A お抱えのアヤド・アラウィは大統領に据えられたまま、さらに14箇所に常設軍事基地を建設するペンタゴンの計画が依然として進行中であった。

民主主義とは、「人民による支配」を意味している。この日曜日の出来事は、単に軍事占領と傀儡政府による支配の引き伸ばしに過ぎない。

これは意味の無い選挙であった

この一場の政治劇は、正確にはとても選挙と言うことさえできないものである。選挙といえば、いずれ就任して何らかの権力を行使する者を、有権者が候補者から選ぶことができるものだ。今回の選挙では、有権者は任意の候補者に投票することも、政党に投票することさえもできなかった。そうではなく、リストに投票することを許される

だけだった。そのリストにどんな複数の政党、どんな複数の個人が記載されているのか、知るすべが無かった。これらのリストはブレマーに指名された選挙高等弁務団が承認したものだった。7700人の候補者の名前は公表されておらず、したがって実際に一票を投じられたのが誰なのか、わかるはずがなかったのだ。

このような手続きで結果として選ばれた候補者に、行政権、立法権を執行することなどではしない。暫定的国民議会を構成し、その議会在占領軍の監督の下に憲法草案を作成することになる。

イラク国民には占領反対に票を投ずる機会とは与えられなかった。匿名の候補者リスト、イラクを植民地化しようとする米国の計画を改変する力もない、米国の承認を受けた候補者のリストに投票することしか許されなかったのだ。

もちろん、イラク国民は自己の未来を決定するのだから、自由で開かれた選挙で投票することを望んでいたのに、占領側は候補者名簿に載っていないので、選挙に対するどのような主張も、無意味になっていた。

この戦争でアメリカに殺された10万以上の人

びとには投票する機会是与えられなかった。むしろ、アブグレイブの拷問部屋の中の囚人にも。

1955年のイラクに引き戻す

伝えられるところによると、ブッシュ政権はこの選挙は、過去50年間で初めての民主主義的選挙であると言明している。ここで、この前の民主主義的選挙と言っているのは、米英によって政権の座に据えられた独裁政権の下での、行政権も立法権も持たない諮問機関を選ぶという代物だった。この諮問機関の唯一の機能といえば、傀儡政権に正当性の仮面をかぶせることであって、この選挙はイラク国民が米英石油企業の支配下におかれているという事実を変えるものではなかった。その後3年も経ずして、この腐敗した独裁政権は、圧倒的な人民の革命的蜂起によって倒された。そのとき以来、米英はイラクを以前のような半植民地状態に戻そうと努めてきた。今回の選挙は米英のこの計画の一環なのだ。

米政府は中東に民主主義を持ち込みたいと表明したことなど、一度たりともなかった。元米国防務長官ヘンリー・キッシンジャーは、米国の中東政策を、「中東の石油は極めて重要なので、アラブ諸国の手に委ねることなどできない」と要約した。アメリカは、米軍を駐留させている中東諸国のどの国においても、民主主義を持ち込む努力などしたことはない。クウェート、サウジアラビア、アラブ首長国連合の国民はみな、封建独裁政権の下、自由選挙も、市民的自由も、市民的権利も、労働者の団結権も、女性の権利も、一切無い所で生きているのだ。

この選挙は占領下で行われたものだ

この選挙がどのような状況の下で挙行されたかをはっきりさせることが重要である。15万以上の米軍がこの国を占領し、イラク国民に銃口を向けてパトロールしている。イラク全土で、米占領軍は前例の無い治安対策をいくつも強行している。発見即発砲の夜間外出禁止令、国境閉鎖、自動車禁止、イラク国内での旅行制限、その他である。

この選挙は米国大使ジョン・ネグロポンテの采

配の元で行われた。ネグロポンテは1981年から1985年まで駐ホンジュラス米大使を務め、コントラ・テロリストと暗殺団に関わった人物である。ネグロポンテが大使であった間のホンジュラスは、レーガン政権がニカラグア、エルサルバドル、グアテマラ国民にたいして暴虐な攻撃を行うための出撃基地であった。 記者註：ネグロポンテについては、『TUP 速報310号 新・駐イラク米国大使の暗い経歴 04年5月16日』[TUP アンソロジー『世界は変えられる』第Ⅱ集(七つ森書館)に所収]に詳しい。コントラはレーガン米大統領がCIAに作らせたニカラグアの反革命武装組織で、多数のサンディニスタ民族解放戦線メンバーを暗殺し、その政権を崩壊に導いた。

ネグロポンテの前任者であるポール・ブレマーがこの選挙の諸規則を作った。選挙の実行組織、選挙高等弁務団はブレマーが指名し、米政府の認可条件に適合しない政党にはすべて資格を与えない権限を持っていた。退任する前にブレマーは、選挙によって無効とすることのできない一連の条項を公布した。国際法に違反するその条項の多くは、イラクの天然資源の略取と経済支配に関するものである。イラク国民がどの候補者リストに投票しようとも、イラク国民の未来に影響を及ぼす決定が、ウォールストリートからの司令で動く占領政府によってなされ続けているのである。

ネグロポンテを支援しているのが、米企業のために外国の選挙を不正に操る長い経験を持ち、政府からも資金が出ている二つの組織、米国民民主党国際研究所と共和党国際研究所である。両組織とも、米国民主義基金および米国際開発庁と密接に連絡を取りながら仕事をし、外国での秘密活動のためにCIAに利用されてきた。例えば、民主的に選出され人気もあったベネズエラ大統領ウゴ・チャベスを失脚させようとして、クーデタや罷免国民投票の画策に関わったのが両組織である。また、ウクライナで確実に親米の国家元首を据える工作にも加わった。

ベトナム人民に対するアメリカの戦争の最中にも、似たような選挙が行われた。軍の占領下、アメリカが管理して行われたもので、真のベトナム自身の政府を成立させるようなものでは決してなかった。ベトナムでアメリカが画策して行ったど

の選挙でも、占領下政府に正当性を与えたり、抵抗を終わらせたりすることはできなかった。同じように、イラクのこの選挙も銃を突きつけられながら行われたものであり、戦争犯罪人によって管理され、C I Aのトンネル会社の演出によるものだった。これが民主主義といくらかでも関係があるなどと装うとは言語道断である。

この選挙には全く信頼が置けない

この選挙は、国際監視団が来ていない点でほとんど類まれであった。投票行動、投票用紙が正規のものかどうか、開票行動などの部外者による監視が全く無かった。唯一行われた監視も米国民党国際研究所のような機関によって訓練を受けた監視者によるもので、言ってみればC I Aによるものだ。

選挙過程を見守る国際監視団がいらないのだから、選挙自体、選挙を実行している主体 - ブッシュ政権 - の信用度と同程度の信用しか得られはしない。ブッシュ政権こそ大量破壊兵器のことで嘘をつき、アルカイダとイラクの結託のことで嘘をつき、この戦争と占領に関すること全てに嘘をついていたではないか。

この選挙は一つの広報活動キャンペーンだった

米国の占領反対が勢いを得てきている。下院議員を含め、多くの人びとが占領を終結せよと要求し始めた。

この選挙は、事態が前進しているという幻想を作りだすべく演出されたものであり、昨年6月28日に行われたまやかしの政権移譲と変わらない。狙いは占領を正当化する新たな虚構を捏造(ねつぞう)することだ。大量破壊兵器に関する数々の嘘が明るみに出されてきた。9月11日の攻撃にイラク人が関与していたということも嘘だったとわかった。そこで今度は、ブッシュ政権は占領継続を正当化する大義として民主主義にとびついたのだ。

アメリカはイラクに民主主義をもたらさなければならぬとか、アメリカがいなければこの国は内戦に陥るしかないという主張は、人種差別以外

の何ものでもない。それは大英帝国や他の帝国が他国をまるごと植民地とすることの正当化のために使った議論の焼き直しである。

投票した人の多くは、自分の国の占領終結を確かなものとする過程の一部であると思って選挙に参加したのだ。どの世論調査も、イラク人の圧倒的多数が占領の即時停止を求めていることを示している。ひとたびこの選挙が占領延長と国土の不法占有の正当化に役立つだけであることを悟れば、これまでにない激しい憤りと抵抗を起こさずにはいないだろう。

高投票率というのは作り話だ

投票率が圧倒的な高さだったとメディアは報じているが、多くの地域で投票所が開かれなかったり、投票所には人影も無かった。ファルージャ、サマッラ、ラマディでは投票したのは一握りの人びとにすぎなかった。在外イラク人では有権者の80%が投票しなかった。このことは低投票率は安全に問題があるからであるという神話を否定するものだ。投票率が低かったのはイラク国民が占領に反対し、この選挙が自国を占領している者の広報活動の一つであることがわかっているからである。

イラク国民は占領の即時終結を求めている

本当に民主主義のことを思うのであれば、イラク国民が占領に反対していることは素直に理解できる。イラクの人びとが軍隊の即時引き揚げを求めており、それも選挙を演出し、傀儡政権を樹立させておく前に、引き揚げるよう求めていることは、世論調査が繰り返し示してきた。

国内全域で抵抗が強まっていることは、イラク国民が占領軍についてどのように感じているかを示している。占領軍は民主主義をもたらすためにいるのではない。むしろ、それがもたらしたのは、死、破壊、拷問である。イラク国民と世界中のますます多くの人びとが占領の終結を求めているのである。

2005年1月31日